

提出日: 年 月 日
 履修(希望)者氏名:
 (希望)学位プログラム:○○学位プログラム
 (希望)サブプログラム:○○サブプログラム
 指導(希望)教員名:
 指導(希望)分野(複数可):

記入要領

観点	項目	自己評価レベル			自己評価の根拠
		入学時 審査時	中間 審査時	最終 審査時	
知識・能力	① 専門基礎: 入学者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。				博士論文の研究について、直接必要となる分野としてどのような能力・知識が必要であるか具体的に説明し、それらをどのように修得してきたか、また、それらが研究テーマ遂行に充分であることを主張してください。関係する発表論文があれば説明に含めてください。
知識	② 関連分野基礎: 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。				研究分野を支える関連的な分野について、どのような知識・能力が必要であると認識しているか、及び修得した経緯やそのレベルについて記述してください。(具体的な分野名を記述する。)さらに、これから必要である、もしくは修得したいと考えている関連分野の知識・能力があれば、そちらも記述してください。
分析力	③ 現実問題に対する分析力: 現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。				申請者が研究や開発現場においてこれまでに対処した現実の問題について、社会的側面(社会現象)や学問的側面のどちらかあるいはその両方でどのような位置付けにあるか、どのように認識しているかを説明してください。
教養	④ 広い視野: 博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。				社会人としての業務・研究活動の経験のなかで、①現場の技術者・研究者との議論に支障のない広範囲な知識・教養 ②異種の研究分野と自分の研究分野について円滑に関連づけられる知識・能力(広い視野)を有していることを例を挙げて説明してください。また、視野を広げるための努力について記述してください。併せて、博士論文のテーマに関して、その学問的位置づけと社会的位置づけについても説明して下さい。

総合力	⑤ 問題設定から解決まで: 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。				今までの研究・開発の業務経験において、問題の設定～解決までの具体例を紹介してください。失敗あるいは試行錯誤の経験も含め、関係者との討議を通して研究を進展させた経験などを記述してください。また、問題解決に対して経験から得られた心構え・モチベーションなどがあれば記述してください。
表現力	⑥ プレゼン・コミュニケーション能力: 博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか。				国内外を含めた、学会での発表経験(種類・回数)、講演会での発表経験や講習会での指導経験、海外研究者との交流経験、ボランティア経験、マネジメント的立場での指導経験など、国内外でのプレゼン・コミュニケーション経験・能力について記述してください。また、コミュニケーションやプレゼンテーション能力向上のために行った努力があれば記述してください。
表現力	⑦ 国際的通用性: 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。				国際学会等における外国語での発表経験(種類・回数)、外国語論文の執筆経験、留学経験、海外への長期渡航経験などについて記述してください。また、そこから得られた学識・能力等について記述してください。
総合力	⑧ 学術的成果: 博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。				これまでに発表した論文について、研究の新規性、結果のインパクトを説明し、関連分野の論文発表への貢献があれば具体的に記述してください。(学位プログラムによっては中間評価以降に追加: 入学後の指導の成果として論文発表の進行状況) また、論文発表への貢献度や、今現在の研究に対する貢献度等を具体的に記述してください。

注1: 自己評価レベルについては、「A(博士の学位にふさわしいレベル)」、「B(修士の学位レベル)」、「C(学士の学位レベル)」を基準として自己評価を行う。

注2: 自己評価で「A」評価とした項目について、教員側の評価において同じく「A」評価とされた場合に達成済みとする。

注3: 「A」評価を得た項目については、更なる特筆すべき事項等が無い場合はシートの内容を更新する必要は無い。

注4: A4用紙で2枚程度に収まるように記入する。なお、記入セルサイズの変更を可とする。